

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)  
 分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 小宮 節郎 鹿児島大学 整形外科 教授

研究協力者 河村 一郎、精松 昌彦、富永 博之、山元 拓哉

研究要旨 胸椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧固定術後の治療成績

A. 研究目的

Instrumentation 併用後方除圧術の  
 術後成績の検討

B. 研究方法

当院で胸椎後縦靱帯骨化症に対して  
 instrumentation 併用胸椎除圧固定術を行  
 った症例を検討。

- ①年齢
- ②術前 JOA score
- ③知覚障害出現から手術までの期間
- ④歩行障害出現から手術までの期間
- ⑤後弯角の改善率
- ⑥局所骨化角
- ⑦骨化型 (嘴型、平坦型)
- ⑧骨化占拠率
- ⑨最大骨化巣の高位
- ⑩髄内輝度変化 (MRI T2WI)

C. 研究結果

2016 年度報告に 2017 年手術施行分 (5 例  
 施行) 症例を追加し、現在解析中である。

D. 考察、

胸椎 OPLL は術後症状悪化することもあり  
 治療に難渋する疾患である。後方除圧固定  
 術により著明な改善がない場合前方固定を  
 行う施設、あるいは悪化した場合前方固定  
 を追加する施設があるが、当施設では術後  
 悪化例もしくは症状が全く改善しない症例  
 は前方固定を追加する方針で行っている。

E. 結論

胸椎除圧固定術において後弯矯正 (Dekyphosis) の重要性が改めて示唆された。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他